

18歳人口予測

大学・短大・専門学校進学率、 地元残留率の動向

—エリア別分析—

▶ 18歳人口予測 (P3~P5)

- ・18歳人口は全国では2017年までほぼ横ばい、2018年以降、減少傾向。
- ・減少率が高いのは東北、北海道、甲信越エリア
- ・減少率が低いのは三大都市圏（南関東・東海・近畿）

▶ 進学率（現役）の推移 (P6~P9)

大学進学率

- ・2009~2010年まで上昇傾向、以後減少傾向。
- ・大学進学率が最も増加したのは南関東。2004年には近畿や東海とほぼ変わらず42%であったが、2013年には56%まで上昇（2004年の約1.3倍）。

短大進学率

- ・2004年から減少傾向。
- ・短大進学率が最も減少したのは北関東。次いで南関東。
これらの短大進学率は、共に2004年の約6割弱まで落ち込んでいる。

専門学校進学率

- ・2009年まで減少傾向であったが、以後増加傾向。
しかし、全国的に2004年と2013年を比較すると進学率は減少。
- ・専門学校進学率が最も減少したのは東海で、2004年の約8割。
一方、北海道および九州・沖縄は2004年の94%まで回復。
- ・大学進学率1位は東京（62%）、専門学校進学率1位は新潟（28%）

▶ 地元残留率の推移 (P10~P12)

- ・大学、短大共に北海道の地元残留率が特徴的に高い（大学69%、短大89%）
- ・大学、短大共に北海道を除く全エリアの残留率が2004年より上昇。
- ・経年では、残留率が最も増加したのは、大学では北陸、短大では甲信越。どちらも2013年は2004年の約1.2倍に増加
- ・大学残留率1位は愛知（72%）、短大残留率1位は福岡（93%）

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
リクルート進学総研
<http://souken.shingakunet.com/>

データについて

■18歳人口予測 算出方法について

<18歳人口 = 3年前の中学校卒業生および中等教育学校修了者数>

※中学校卒業生数 = 高校生 + フリーター + 就職者 すべて含む

<データ元>

年	学校基本調査確定値
H23年(2011年)	H20年(2008年) の中学校卒業生数
H24年(2012年)	H21年(2009年) の中学校卒業生数
H25年(2013年)	H22年(2010年) の中学校卒業生数
H26年(2014年)	H23年(2011年) の中学校卒業生 + 中等教育学校前期課程修了者 (全国のみ)
H27年(2015年)	H24年(2012年) の中学校卒業生 + 中等教育学校前期課程修了者 (全国のみ)
H28年(2016年)	H25年(2013年) の中学校卒業生 + 中等教育学校前期課程修了者 (全国のみ)
H29年(2017年)	H25年(2013年) の中学校3年生 + 中等教育学校前期課程3年生の児童数
H30年(2018年)	H25年(2013年) の中学校2年生 + 中等教育学校前期課程2年生の児童数
H31年(2019年)	H25年(2013年) の中学校1年生 + 中等教育学校前期課程1年生の児童数
H32年(2020年)	H25年(2013年) の小学校6年生児童数
H33年(2021年)	H25年(2013年) の小学校5年生児童数
H34年(2022年)	H25年(2013年) の小学校4年生児童数
H35年(2023年)	H25年(2013年) の小学校3年生児童数
H36年(2024年)	H25年(2013年) の小学校2年生児童数

■卒業生数 = 高等学校全日制・定時制・中等教育後期課程

■進学者数 = 大学・短期大学・専修学校（専門課程）に進学した数

■進学率（現役） = 進学者数 / 卒業生数

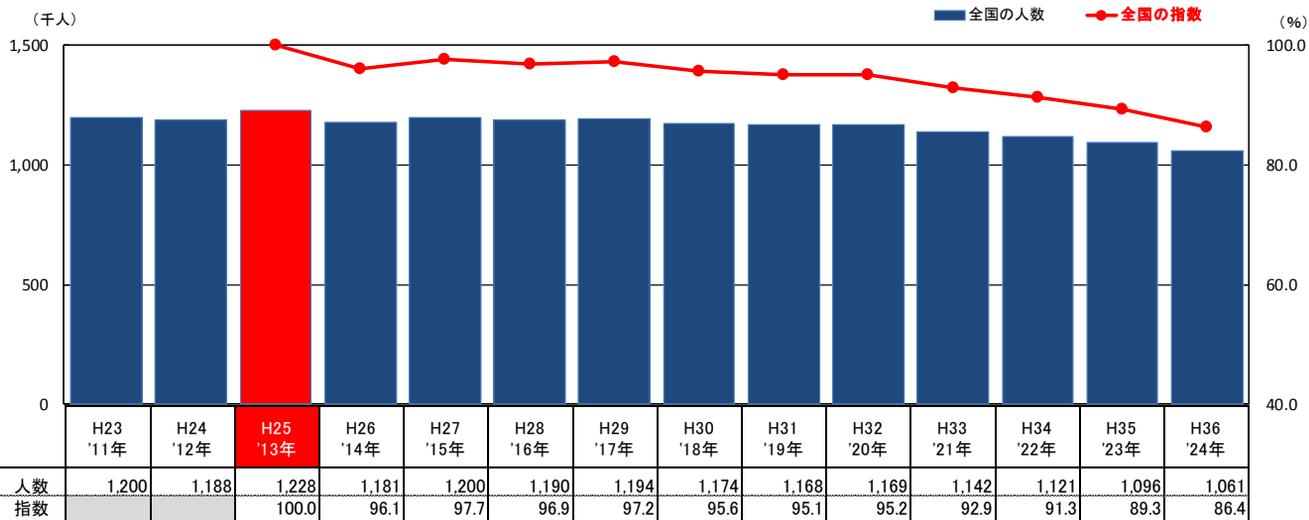
■地元残留率 = 各都道府県の高卒者が地元の大学・短期大学に入学した割合

データはすべて「平成25年度 学校基本調査（確定版）」より

18歳人口 人数・減少率予測（全国：2013→2024）

■2017年までほぼ横ばい、2018年以降、大きく減少

- ・2014年に減少(2013年：123万人→2014年：118万人)
- ・2017年まではほぼ横ばい傾向(119万人前後)
- ・2018年以降減少に転じ、2024年には106万人となる。
(2013年と比較して17万人減、13.6%減)

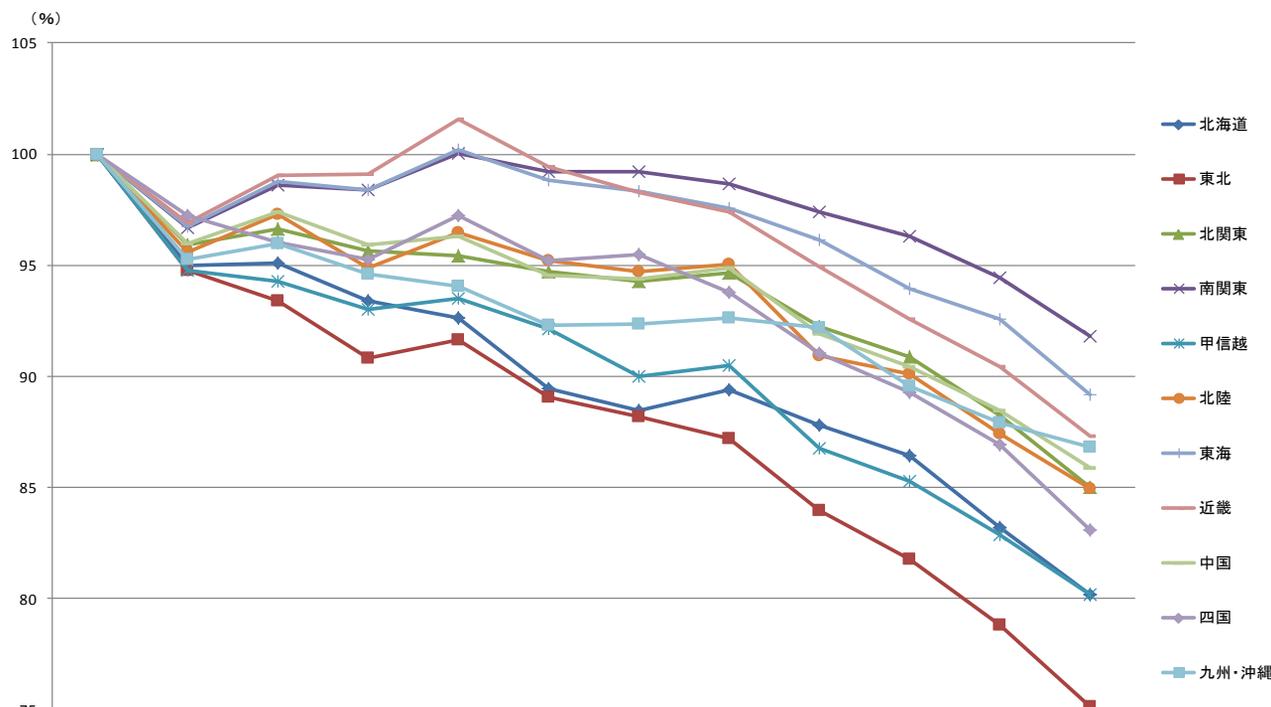


※人数の単位は(千人)

18歳人口 減少率予測（各エリア：2013→2024）

■減少率が低いのは三大都市圏（南関東・東海・近畿）

- ・減少率が低いのは南関東、東海、近畿の三大都市圏。
- ・三大都市圏の減少率は2014年にいったん減少するものの、2017年に2013年並みに回復。しかし、2018年以降は1~2%、2021年以降2~3%のペースで減少。
- ・特に近畿は2017年以降の減少幅が大きく、2024年には九州・沖縄エリアの減少率に近づく。
- ・一方、都市圏以外でのエリアは減少率が高い。
- ・2024年までの推移では、東北の減少率が最も高く（24.8%減）、次いで北海道、甲信越（19.8%減）、四国（16.9%減）と続く。



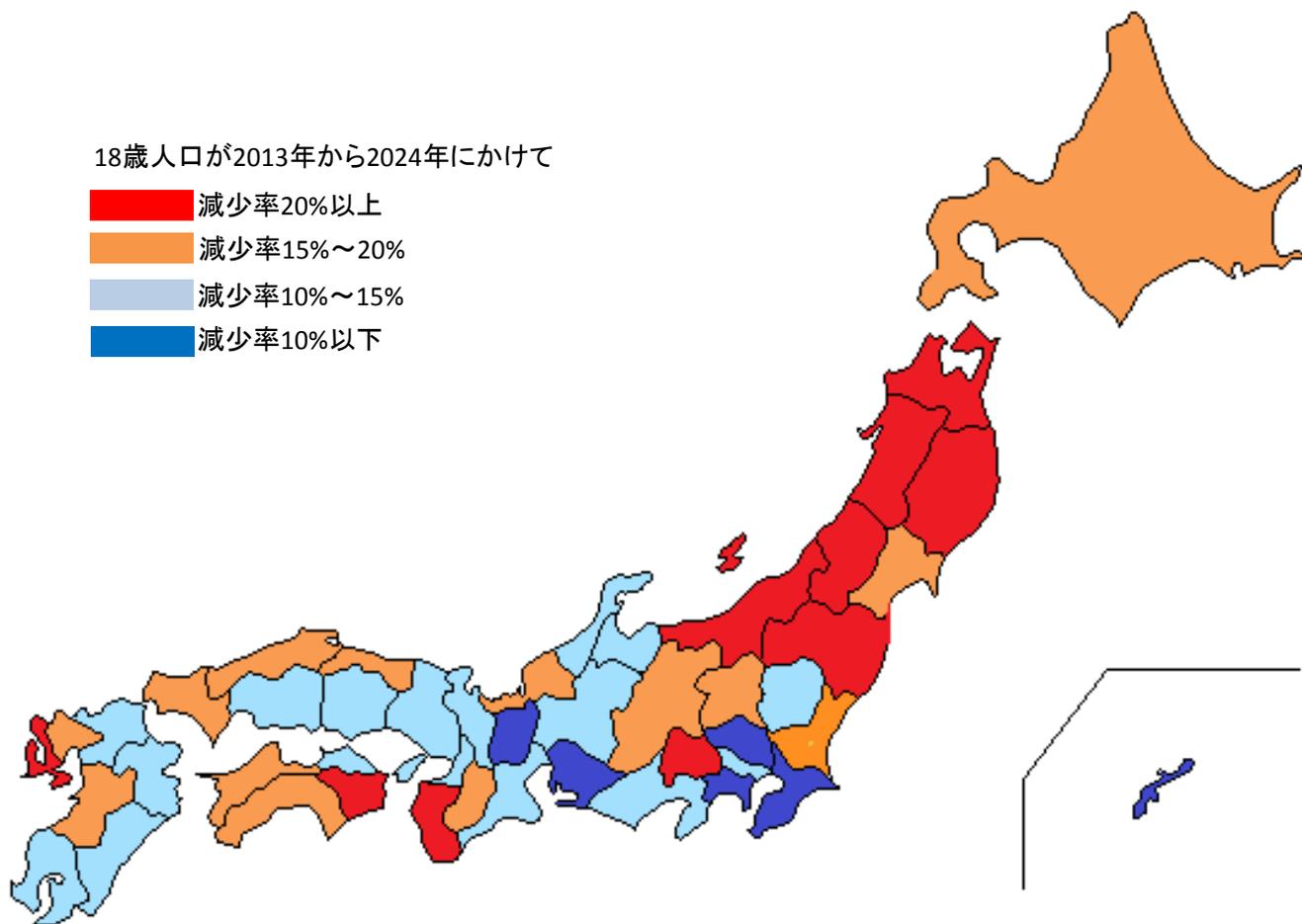
		H25 '13年	H26 '14年	H27 '15年	H28 '16年	H29 '17年	H30 '18年	H31 '19年	H32 '20年	H33 '21年	H34 '22年	H35 '23年	H36 '24年
北海道	人数	51,359	48,781	48,846	47,965	47,575	45,943	45,441	45,904	45,105	44,407	42,726	41,174
	指数	100.0	95.0	95.1	93.4	92.6	89.5	88.5	89.4	87.8	86.5	83.2	80.2
東北	人数	96,117	91,096	89,754	87,287	88,066	85,585	84,778	83,823	80,699	78,614	75,733	72,238
	指数	100.0	94.8	93.4	90.8	91.6	89.0	88.2	87.2	84.0	81.8	78.8	75.2
北関東	人数	70,131	67,278	67,770	67,077	66,934	66,437	66,129	66,372	64,701	63,718	61,881	59,620
	指数	100.0	95.9	96.6	95.6	95.4	94.7	94.3	94.6	92.3	90.9	88.2	85.0
南関東	人数	307,724	297,512	303,460	302,711	307,859	305,248	305,202	303,593	299,675	296,283	290,604	282,493
	指数	100.0	96.7	98.6	98.4	100.0	99.2	99.2	98.7	97.4	96.3	94.4	91.8
甲信越	人数	55,489	52,593	52,304	51,605	51,899	51,126	49,925	50,225	48,148	47,329	45,996	44,498
	指数	100.0	94.8	94.3	93.0	93.5	92.1	90.0	90.5	86.8	85.3	82.9	80.2
北陸	人数	30,705	29,358	29,867	29,136	29,621	29,227	29,076	29,175	27,923	27,674	26,849	26,078
	指数	100.0	95.6	97.3	94.9	96.5	95.2	94.7	95.0	90.9	90.1	87.4	84.9
東海	人数	149,428	144,547	147,562	147,016	149,756	147,649	146,964	145,762	143,623	140,400	138,362	133,256
	指数	100.0	96.7	98.8	98.4	100.2	98.8	98.4	97.5	96.1	94.0	92.6	89.2
近畿	人数	201,113	194,920	199,197	199,335	204,204	200,012	197,612	195,866	190,918	186,230	181,858	175,642
	指数	100.0	96.9	99.0	99.1	101.5	99.5	98.3	97.4	94.9	92.6	90.4	87.3
中国	人数	74,280	71,288	72,342	71,234	71,533	70,214	70,107	70,475	68,276	67,185	65,729	63,787
	指数	100.0	96.0	97.4	95.9	96.3	94.5	94.4	94.9	91.9	90.4	88.5	85.9
四国	人数	38,231	37,175	36,709	36,415	37,165	36,397	36,512	35,859	34,805	34,130	33,235	31,770
	指数	100.0	97.2	96.0	95.2	97.2	95.2	95.5	93.8	91.0	89.3	86.9	83.1
九州・沖縄	人数	153,583	146,290	147,372	145,287	144,473	141,729	141,839	142,298	141,554	137,579	135,000	133,365
	指数	100.0	95.3	96.0	94.6	94.1	92.3	92.4	92.7	92.2	89.6	87.9	86.8

参考：18歳人口 減少率予測（各都道府県：2013→2024）

■ 東日本の減少率が高く、特に東北は6都道府県中5都道府県が減少率20%を超えている。
次いで甲信越や中四国も減少率が高く、都市部に関しては比較的減少率が小さい。

18歳人口が2013年から2024年にかけて

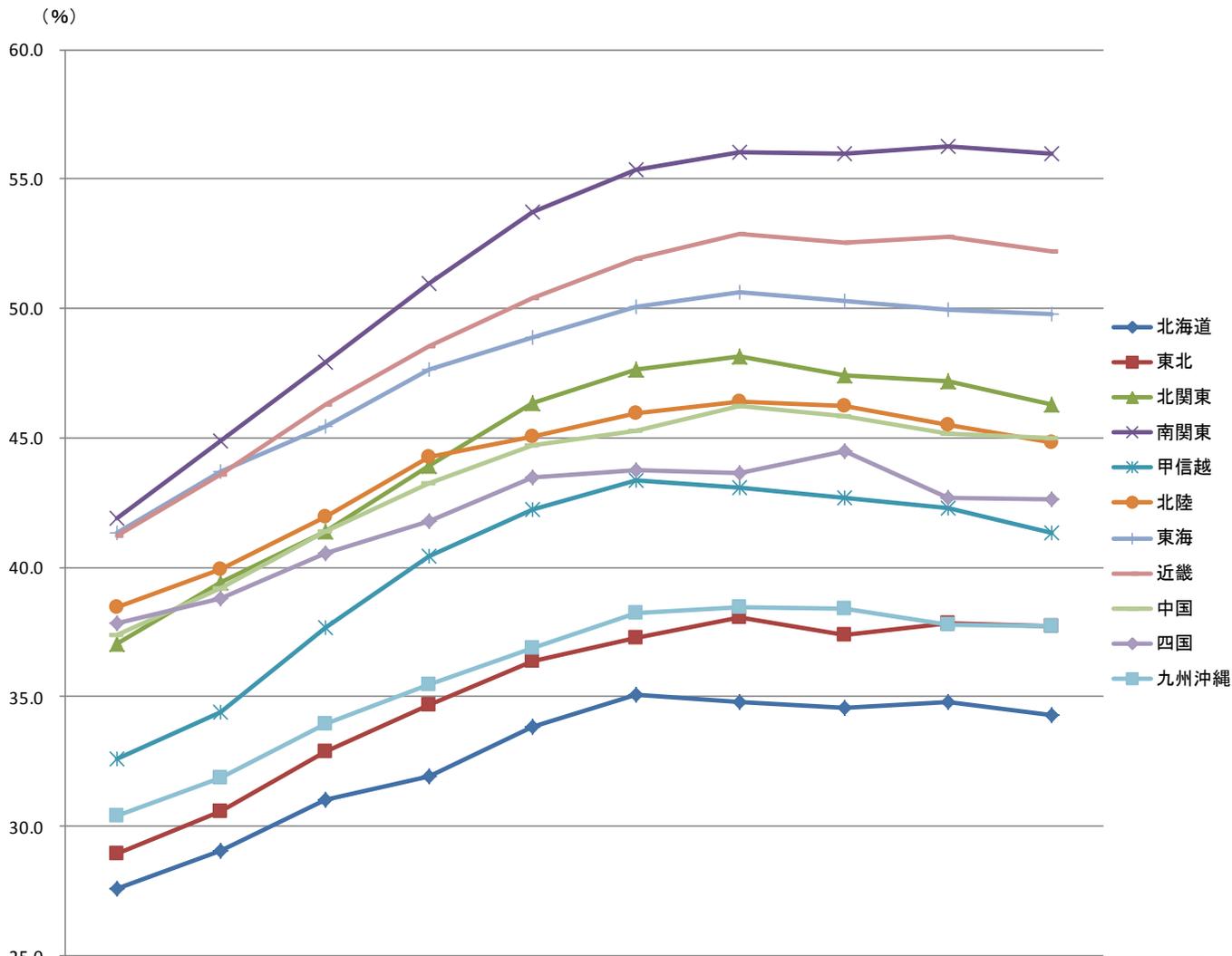
- 減少率20%以上
- 減少率15%～20%
- 減少率10%～15%
- 減少率10%以下



大学進学率の推移（各エリア：2004→2013）

■ 2009～2010年まで上昇傾向、以後減少傾向。

- ・ 2013年では、大学進学率が高いエリアは南関東、東海、近畿の三大都市圏。
- ・ 経年では、2009～2010年まで上昇傾向、以後減少傾向となっている。
- ・ 大学進学率が最も増加したのは南関東。2004年には近畿や東海とほぼ変わらず42%であったが、2013年には56%まで上昇（2004年の約1.3倍）。次いで東北、甲信越が増加している。

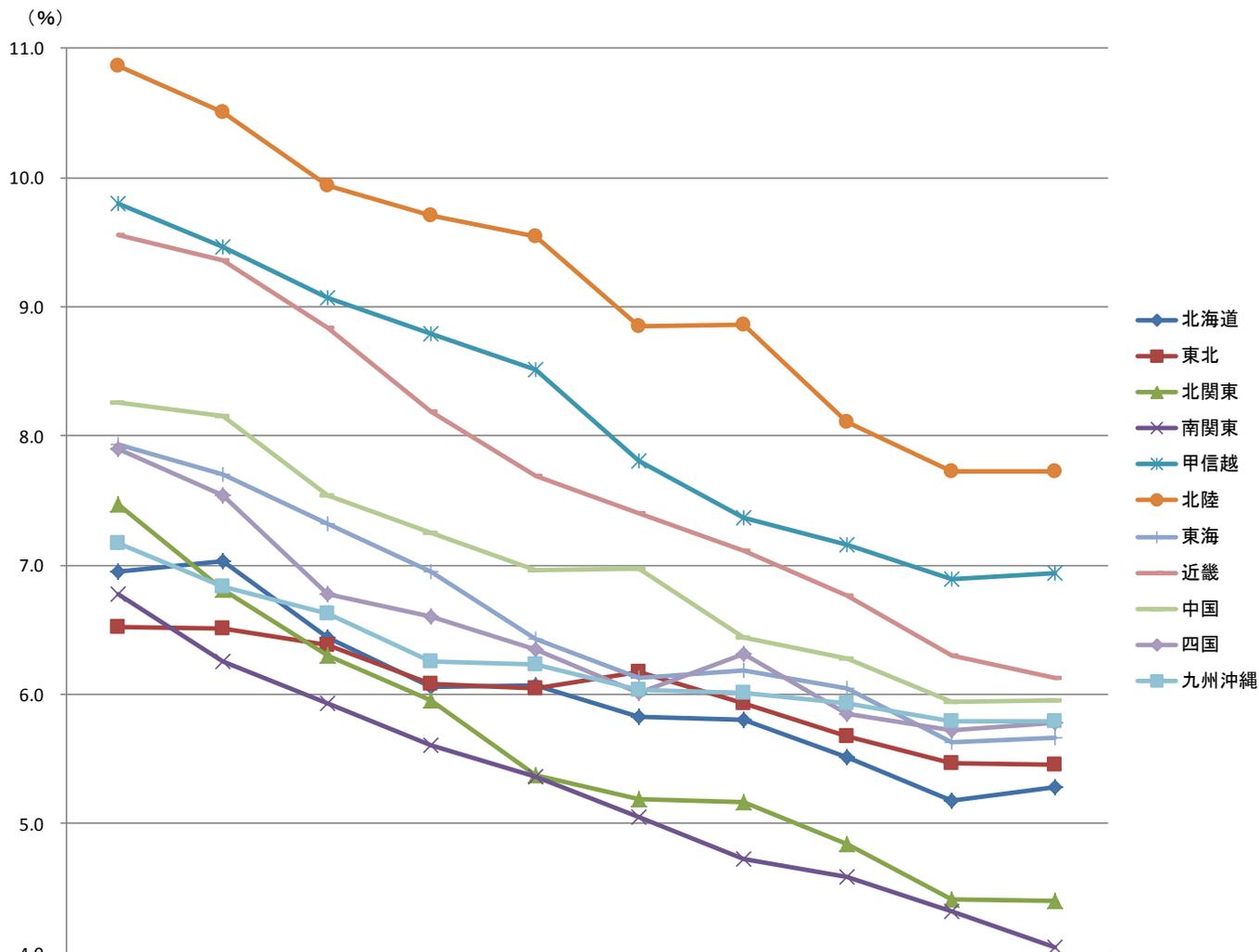


	H16 '04年	H17 '05年	H18 '06年	H19 '07年	H20 '08年	H21 '09年	H22 '10年	H23 '11年	H24 '12年	H25 '13年	2004年から 2013年増加 率
北海道	27.6	29.0	31.0	31.9	33.9	35.1	34.8	34.6	34.8	34.3	124.2%
東北	28.9	30.6	32.9	34.7	36.4	37.3	38.1	37.4	37.8	37.8	130.5%
北関東	37.1	39.4	41.4	43.9	46.4	47.6	48.1	47.4	47.2	46.3	124.9%
南関東	41.9	44.9	47.9	50.9	53.7	55.3	56.1	56.0	56.3	56.0	133.7%
甲信越	32.6	34.4	37.7	40.4	42.2	43.4	43.1	42.7	42.3	41.3	126.7%
北陸	38.5	39.9	42.0	44.3	45.1	45.9	46.4	46.2	45.5	44.8	116.6%
東海	41.3	43.7	45.5	47.7	48.9	50.1	50.7	50.3	49.9	49.8	120.5%
近畿	41.2	43.6	46.3	48.5	50.4	51.9	52.9	52.5	52.7	52.2	126.6%
中国	37.4	39.2	41.4	43.2	44.7	45.3	46.3	45.9	45.2	45.0	120.3%
四国	37.8	38.8	40.6	41.8	43.5	43.7	43.7	44.5	42.7	42.6	112.7%
九州沖縄	30.4	31.9	34.0	35.5	36.9	38.2	38.4	38.4	37.8	37.7	124.0%

短大進学率の推移（各エリア：2004→2013）

■全国的に減少傾向。

- ・2013年では、短大進学率が高いエリアは北陸、甲信越、近畿。
 - ・経年では、全国的に減少傾向となっている。
 - ・短大進学率が最も減少したのは北関東。次いで南関東。
- これらの短大進学率は、ともに2004年の約6割弱まで落ち込んでいる。

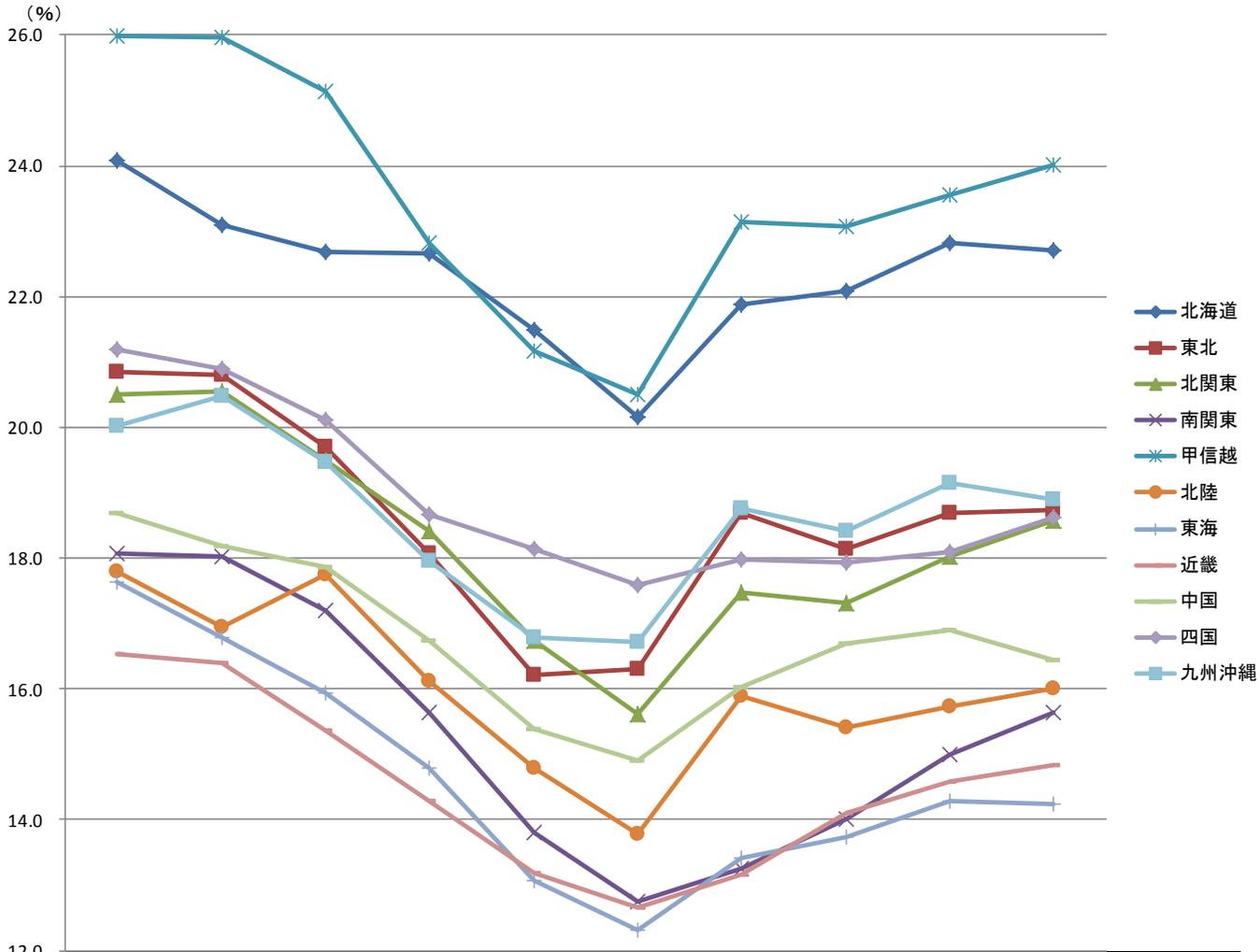


	H16 '04年	H17 '05年	H18 '06年	H19 '07年	H20 '08年	H21 '09年	H22 '10年	H23 '11年	H24 '12年	H25 '13年	2004年から 2013年増加 率
北海道	7.0	7.0	6.4	6.1	6.1	5.8	5.8	5.5	5.2	5.3	75.9%
東北	6.5	6.5	6.4	6.1	6.0	6.2	5.9	5.7	5.5	5.5	83.7%
北関東	7.5	6.8	6.3	5.9	5.4	5.2	5.2	4.8	4.4	4.4	58.8%
南関東	6.8	6.3	5.9	5.6	5.4	5.1	4.7	4.6	4.3	4.0	59.6%
甲信越	9.8	9.5	9.1	8.8	8.5	7.8	7.4	7.2	6.9	6.9	70.9%
北陸	10.9	10.5	9.9	9.7	9.5	8.8	8.9	8.1	7.7	7.7	71.1%
東海	7.9	7.7	7.3	6.9	6.4	6.1	6.2	6.0	5.6	5.7	71.3%
近畿	9.6	9.4	8.8	8.2	7.7	7.4	7.1	6.8	6.3	6.1	64.1%
中国	8.3	8.2	7.5	7.3	7.0	7.0	6.4	6.3	5.9	6.0	72.1%
四国	7.9	7.5	6.8	6.6	6.3	6.0	6.3	5.8	5.7	5.8	73.1%
九州沖縄	7.2	6.8	6.6	6.3	6.2	6.0	6.0	5.9	5.8	5.8	80.7%

専門学校進学率の推移（各エリア：2004→2013）

■ 2009年まで減少傾向であったが、以後増加傾向。

- ・ 2013年では、専門学校進学率が高いエリアは甲信越と北海道。
- ・ 経年では、全国的に2009年まで減少傾向であったが、以後増加傾向となっている。しかし、全国的に2004年と2013年を比較すると進学率は減少している。
- ・ 専門学校進学率が最も減少したのは東海で、2004年の約8割に落ち込んでいる。一方、北海道および九州・沖縄は2004年の94%まで回復している。

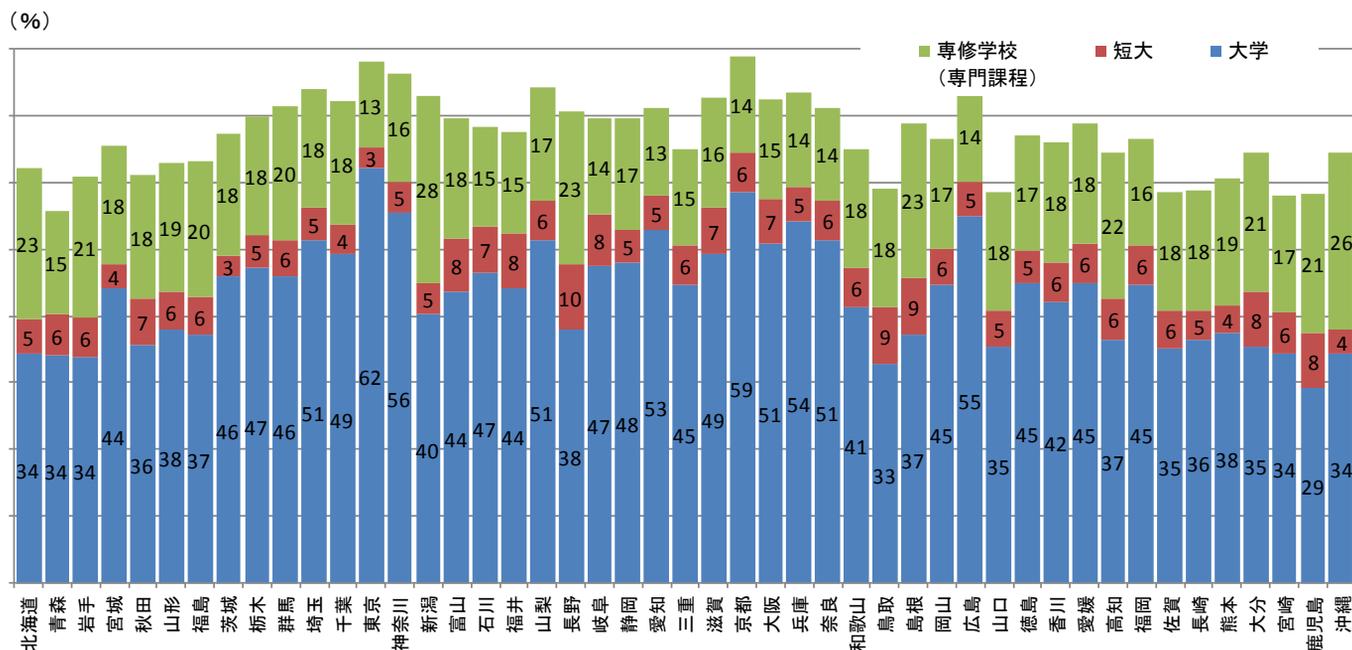


	H16 '04年	H17 '05年	H18 '06年	H19 '07年	H20 '08年	H21 '09年	H22 '10年	H23 '11年	H24 '12年	H25 '13年	2004年から 2013年増加率
北海道	24.1	23.1	22.7	22.7	21.5	20.2	21.9	22.1	22.8	22.7	94.4%
東北	20.8	20.8	19.7	18.1	16.2	16.3	18.7	18.1	18.7	18.7	89.9%
北関東	20.5	20.6	19.5	18.4	16.8	15.6	17.5	17.3	18.0	18.6	90.6%
南関東	18.1	18.0	17.2	15.6	13.8	12.8	13.3	14.0	15.0	15.6	86.6%
甲信越	26.0	26.0	25.1	22.8	21.2	20.5	23.1	23.1	23.6	24.0	92.4%
北陸	17.8	16.9	17.7	16.1	14.8	13.8	15.9	15.4	15.7	16.0	90.0%
東海	17.6	16.8	15.9	14.8	13.1	12.3	13.4	13.7	14.3	14.3	80.8%
近畿	16.5	16.4	15.4	14.3	13.2	12.7	13.2	14.1	14.6	14.8	89.7%
中国	18.7	18.2	17.9	16.7	15.4	14.9	16.0	16.7	16.9	16.5	88.0%
四国	21.2	20.9	20.1	18.7	18.1	17.6	18.0	17.9	18.1	18.6	87.9%
九州沖縄	20.0	20.5	19.5	18.0	16.8	16.7	18.8	18.4	19.1	18.9	94.4%

大学・短大・専門学校進学率（現役：2013年都道府県別）

■ 大学進学率1位は東京（62%）、専門学校進学率1位は新潟（28%）

- ・ 大学進学率が高いのは南関東、東海、近畿の三大都市圏。
→1位：東京（62%） 2位：京都（59%） 3位：神奈川（56%）
- ・ 専門学校進学率が高いのは三大都市圏以外のエリア。
→1位：新潟（28%） 2位：沖縄（26%） 3位：島根（23%）



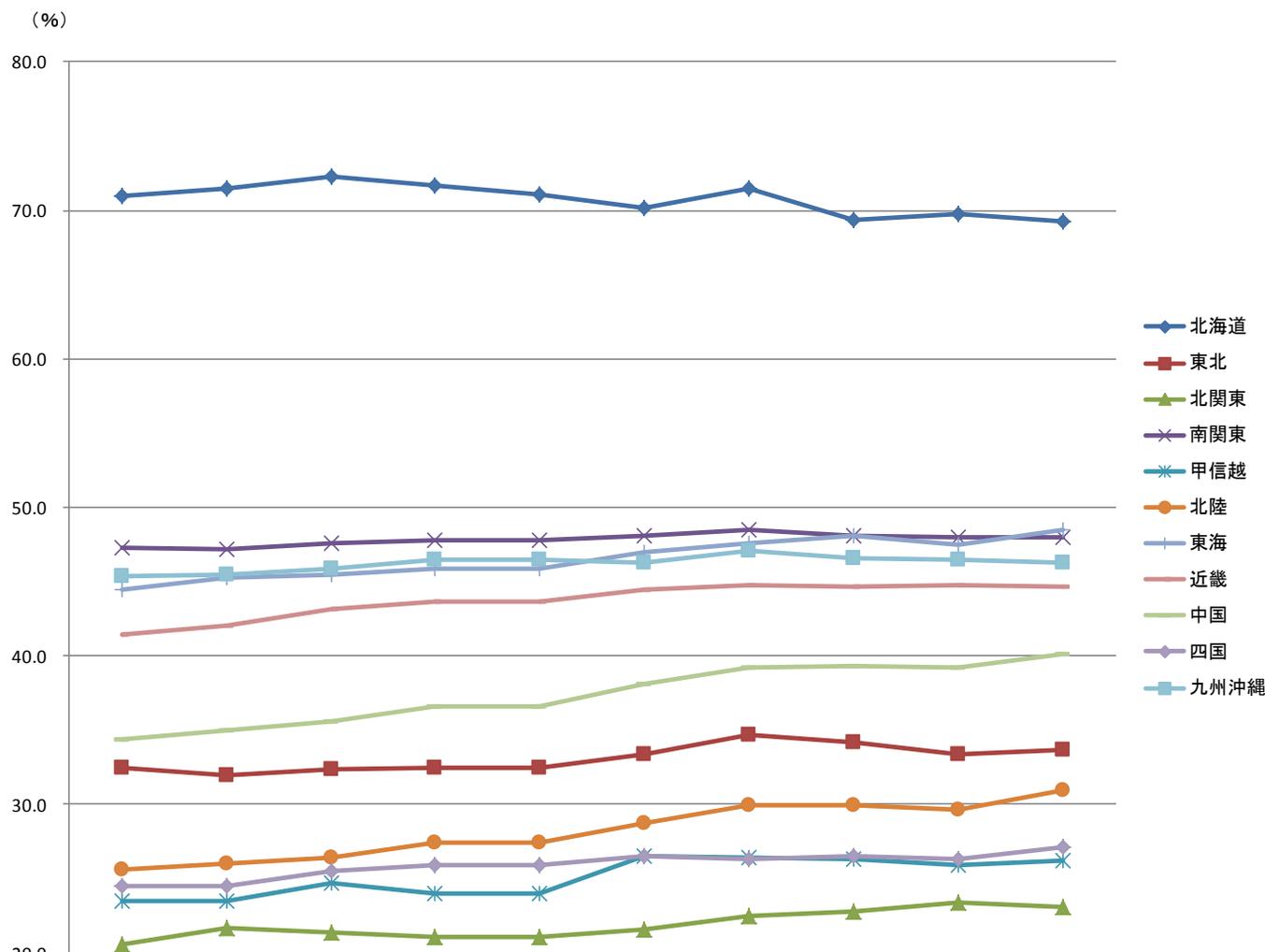
(参考) 大学、短大、専門学校進学率ランキング

大学		短大		専門学校 (専門課程)	
1	東京 62.1	1	長野 9.6	1	新潟 28.0
2	京都 58.5	2	鳥取 8.6	2	沖縄 26.4
3	神奈川 55.6	3	島根 8.5	3	島根 23.2
4	広島 55.0	4	福井 8.2	4	長野 22.9
5	兵庫 54.2	4	大分 8.2	5	北海道 22.7
6	愛知 52.9	4	鹿児島 8.2	6	高知 21.9
7	山梨 51.3	4	富山 8.2	7	岩手 21.3
7	埼玉 51.3	8	岐阜 7.8	8	大分 21.0
7	奈良 51.3	9	秋田 7.1	9	鹿児島 20.8
10	大阪 51.0	10	滋賀 7.0	10	福島 20.3
11	千葉 49.3	10	石川 7.0	11	群馬 20.0
11	滋賀 49.3	12	大阪 6.6	12	山形 19.2
13	静岡 47.9	13	青森 6.3	13	熊本 19.1
14	岐阜 47.4	14	高知 6.2	14	千葉 18.5
15	栃木 47.2	15	宮崎 6.1	15	秋田 18.4
16	石川 46.5	15	福岡 6.1	16	茨城 18.3
17	茨城 45.9	15	奈良 6.1	17	香川 18.1
18	群馬 45.8	15	愛媛 6.1	18	富山 18.0
19	徳島 45.0	19	山梨 6.0	18	愛媛 18.0
20	愛媛 44.8	19	和歌山 6.0	20	長崎 17.9

地元残留率の推移（大学進学者：各エリア：2004→2013）

■北海道を除いた全エリアが2004年より上昇。

- ・2013年では、大学進学者の地元残留率が最も高いエリアは北海道で69%。
- ・経年では、北海道を除く全エリアが2004年より上昇している。
- ・大学残留率が最も増加したのは北陸。2004年の26%が2013年には31%まで上昇（2004年の約1.2倍）。次いで中国、北関東が増加している。

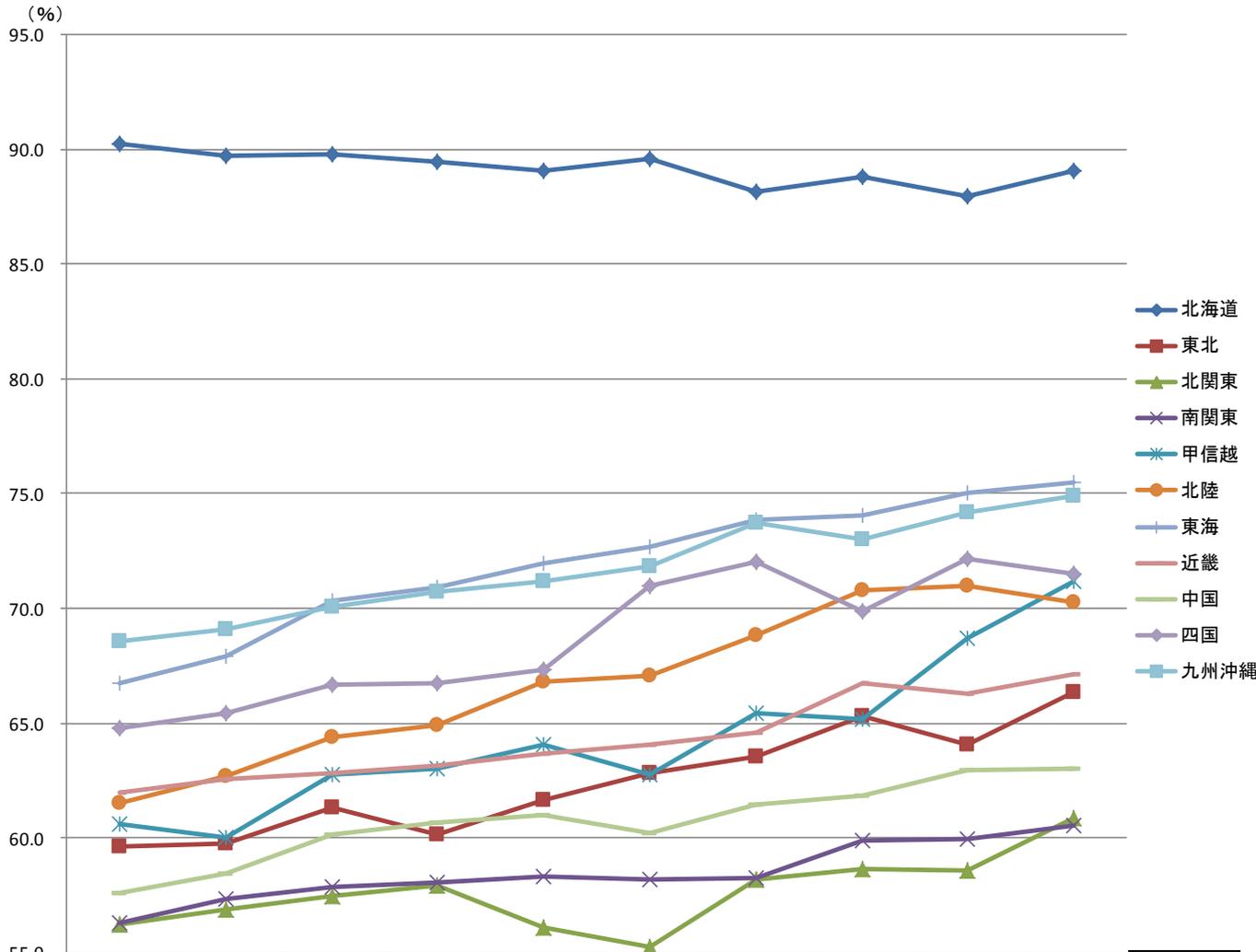


	H16 '04年	H17 '05年	H18 '06年	H19 '07年	H20 '08年	H21 '09年	H22 '10年	H23 '11年	H24 '12年	H25 '13年	2004年から 2013年増加 率
北海道	71.0	71.4	72.2	71.6	71.0	70.1	71.5	69.4	69.7	69.2	97.5%
東北	32.5	32.0	32.4	32.4	32.4	33.4	34.7	34.2	33.4	33.7	103.7%
北関東	20.5	21.7	21.4	21.1	21.1	21.6	22.4	22.8	23.4	23.1	112.6%
南関東	47.2	47.2	47.6	47.8	47.8	48.1	48.5	48.1	48.0	48.0	101.5%
甲信越	23.5	23.5	24.7	24.0	24.0	26.5	26.4	26.3	25.9	26.3	111.7%
北陸	25.6	26.0	26.4	27.4	27.4	28.8	30.0	29.9	29.7	31.0	121.0%
東海	44.5	45.3	45.5	45.9	45.9	47.0	47.6	48.1	47.5	48.4	108.9%
近畿	41.5	42.1	43.1	43.7	43.7	44.5	44.8	44.7	44.7	44.6	107.6%
中国	34.4	35.0	35.6	36.6	36.6	38.1	39.2	39.3	39.2	40.1	116.8%
四国	24.5	24.5	25.5	25.9	25.9	26.5	26.3	26.5	26.3	27.2	111.0%
九州沖縄	45.4	45.5	45.8	46.5	46.5	46.3	47.1	46.6	46.5	46.3	102.1%

地元残留率の推移（短大進学者：各エリア：2004→2013）

■北海道を除いた全エリアが2004年より上昇。

- ・2013年では、短大進学者の地元残留率が最も高いエリアは北海道で89%。
- ・経年では、北海道を除く全エリアが2004年より上昇している。
- ・短大残留率が最も増加したのは甲信越。2004年の61%が2013年には71%まで上昇（2004年の約1.2倍）。次いで北陸、東海が増加している。



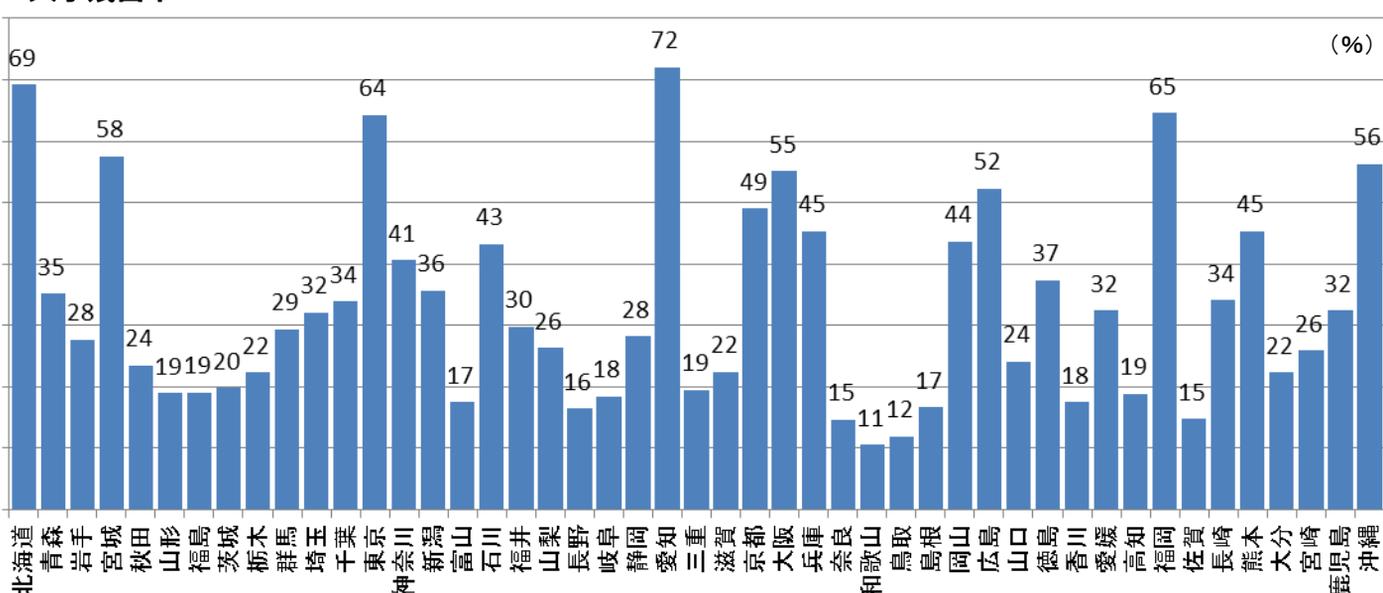
	H16 '04年	H17 '05年	H18 '06年	H19 '07年	H20 '08年	H21 '09年	H22 '10年	H23 '11年	H24 '12年	H25 '13年	2004年から 2013年増加 率
北海道	90.2	89.7	89.8	89.5	89.1	89.6	88.2	88.8	87.9	89.1	98.7%
東北	59.6	59.7	61.3	60.1	61.6	62.8	63.6	65.3	64.1	66.3	111.3%
北関東	56.2	56.9	57.4	57.9	56.1	55.2	58.2	58.6	58.6	60.8	108.2%
南関東	56.3	57.3	57.9	58.1	58.3	58.2	58.2	59.9	59.9	60.6	107.6%
甲信越	60.6	60.0	62.8	63.0	64.1	62.8	65.4	65.2	68.7	71.2	117.4%
北陸	61.5	62.7	64.4	64.9	66.8	67.1	68.8	70.8	71.0	70.3	114.2%
東海	66.8	67.9	70.3	70.9	72.0	72.7	73.9	74.0	75.0	75.5	113.0%
近畿	62.0	62.6	62.9	63.1	63.7	64.1	64.6	66.7	66.3	67.2	108.3%
中国	57.6	58.4	60.2	60.6	61.0	60.2	61.4	61.8	63.0	63.0	109.4%
四国	64.8	65.4	66.7	66.7	67.3	71.0	72.1	69.8	72.2	71.5	110.4%
九州沖縄	68.6	69.1	70.1	70.7	71.2	71.8	73.8	73.0	74.2	74.9	109.3%

地元残留率（大学、短大進学者：都道府県別：2013）

■大学残留率1位は愛知（72%）、短大残留率1位は福岡（93%）

- ・大学残留率 1位：愛知（72%） 2位：北海道（69%） 3位：福岡（65%）
- ・短大残留率 1位：福岡（93%） 2位：北海道、愛知（89%）

・大学残留率



・短大残留率

